

名張・国津小 フェスと開校135周年祝う

学習発表、収穫祭 児童ら生き生き

名張市神屋の小規模特認校、国津小学校で二十七日、児童たちの学習発表と収穫祭、新入学を希望する児童の見学会を兼ねた「おいの国津っ子フェスティバル」が開かれ、児童や父母、地域の人たち約百五十人が参加した。また、今年と同校の開校百三十五周年にあたり、記念式典もあった。(川合正夫)

自慢や方言調べ報告 新入学希望 8人も参加

国津小は、希望すれば最近の学校行事なども次々スクリーンに映され、わった。

四十一人の児童のうち三十六人が区域外から通学している。フェスティバルは、児童たちの学習の成果を父母や地域の人たちに見てもらい、合わせて交流を目的に毎年開いている。この日は、新年度から同校へ入学を希望している八人も参加した。最初に創立百三十五周年の式典があり、引き続き児童たちの学習発表があった。この中では国津の自慢や名張の方言などを調査が報告された。次に同校の歩みを紹介するスライド上映があり、

た。

昼前には児童たちが干本ぎねを使ってのもちつきを行い、数人ずつが力を合わせてもちつき。つき上がったもちをきねで持ち上げると、周囲の人たちから歓声が上がった。会場は楽しい笑い声でいっぱいだった。もちはお母さんたちが丸めてあんな、きな粉、おろしもちにし、児童たちが収穫したコシヒカリで作ったお



干本ぎねでもちつきをする児童たち―名張市の国津小で